

鯖江市伝統野菜吉川ナス栽培指針

1. 吉川ナスの特性とポイント

- 1) 生育適温は 22～30℃。(17℃以下で生育遅れる) 霜には非常に弱い。
- 2) 花粉の発芽適温は 20～30℃。
(15℃以下の低温、35℃以上の高温で着果不良になる。)
- 3) 土壌の乾燥に弱く、常に適度な水分が必要。特に、開花～結実期は必要。
- 4) 最適土壌 pH6～6.8。(酸性にしない)
- 5) 千両ナスに比べて、枝が開く(開帳する)ので、日当たりが良くなるように株間を十分にとる。
- 6) 果実の重みで枝が折れやすいので、枝をしっかり誘引する。
- 7) 開花(着果)から 20 日程度が収穫適期。収穫が遅れると種が固くなり品質が低下する。
- 8) 着果数が多い場合は、摘果を行う。(つやなし、空洞果防止)
- 8) 1 果重 300 g 程度のものを 1 株当たり 30～40 個収穫できればよい。
- 9) こまめな摘葉や剪定を行う。剪定遅れ、一度に剪定を行うと樹勢が弱るので注意。

2. ナスの仕立て方と圃場準備

1) 風による傷果を防ぐ(露地栽培)

- ①ナス果実は枝葉とこすれ合うと傷がつくので、露地栽培はナス圃場のまわりに防風ネット等の防風対策をする。
- ②主枝となる枝は必ず誘引し、風で揺れないようにしっかり固定する。
- ③枝の誘引には、重さに耐えられる丈夫なヒモを使う。(トマトを参考に)

2) 圃場条件に合わせた仕立て計画

- ①基本は、1 うね 1 列植え。枝は主枝 3～4 本仕立て、V字(U字)型。
1 うねに対し、2 本のアーチ支柱が必要なので、畝数が複数ある圃場向き。

3. 圃場準備・施肥

1) トナシム台木の特性

- ①赤ナスに比べ、低温期の生育がやや遅い = 初期の保温をしっかりと行う。
- ②赤ナスに比べ、吸肥力が強く、樹ができやすい = 緩効性を中心とした元肥施肥
- ③赤ナスに比べ、マグネシウム欠乏がしやすい = 元肥・追肥で苦土を施用する

2) 施肥の考え方と施肥例

ナスの目標収量 : 露地栽培で10a当り10トン(7~10月長期どり)
栽培時期全体で、10a当り窒素30kg, リン酸10kg, カリ50kg, (苦土6kg)
元肥は、窒素、カリを全体の半量、リン酸を全量入れる。
元肥の窒素は、初期生育を抑えるため、緩効性肥料主体とする。

3) 圃場準備

- ①定植2週間前に、土づくりとして堆肥、油かす、石灰を施用して耕うんする。
- ②定植7日前に元肥を施用し、うね立てする。
- ③うねは、なるべく大きく、高くする。(うねの天幅80cm程度、高さ30cm)
露地は地温が低いので、透明または初め黒マルチがよい。ハウスは白黒ダブルでよい。
ハウス栽培はマルチの中に必ず灌水チューブを設置する。(露地もできれば)

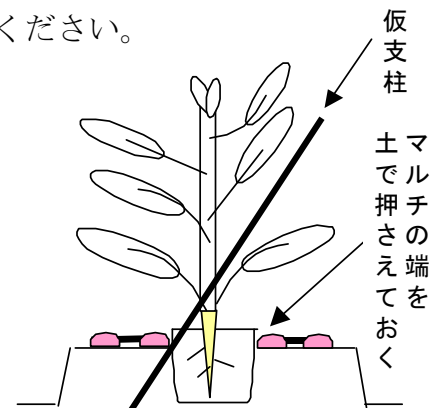
4. 定植

1) 定植日

- ①ハウス栽培は4月下旬から定植可能です。夜間の保温と遅霜対策をしっかりと行う。
- ②露地栽培は5月上旬~中旬の、暖かく、風の無い日に定植してください。

2) 定植方法

- ①本葉7~8枚、1番花の開花始めの苗が定植適期。
- ②植付け深さは、鉢土が見える程度の浅植えにする。
(茎が土に埋まらないよう)
- ③定植後は鉢の周りにかん水し、鉢土と植穴の隙間をなくす。
- ④株間80~100cm、1条植え



整枝・せん定(露地・ハウス共通)

- ・誘引する枝(主枝)が決まったら、主枝以外の枝(側枝)は、せん定を行う。
- ・古い葉(地面についた葉)は除去し、風通しを良くする。
(葉かきは少しずつ行う。)

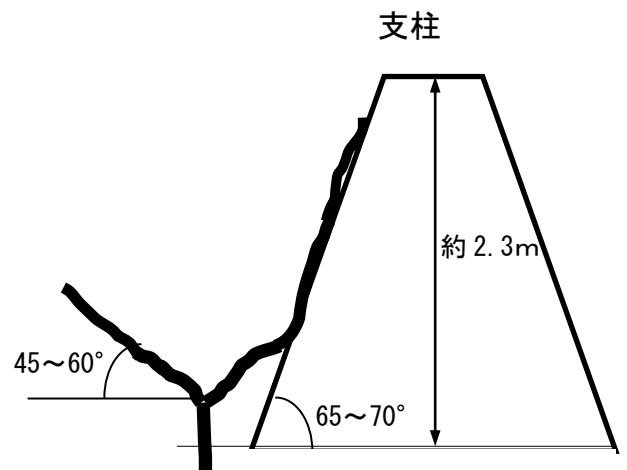
※側枝の剪定方法

- ①開花している花の上の葉を1枚残して摘心する。
- ②側枝の第1果実の収穫時に、2芽(2葉)残して切り戻す。

誘引、整枝

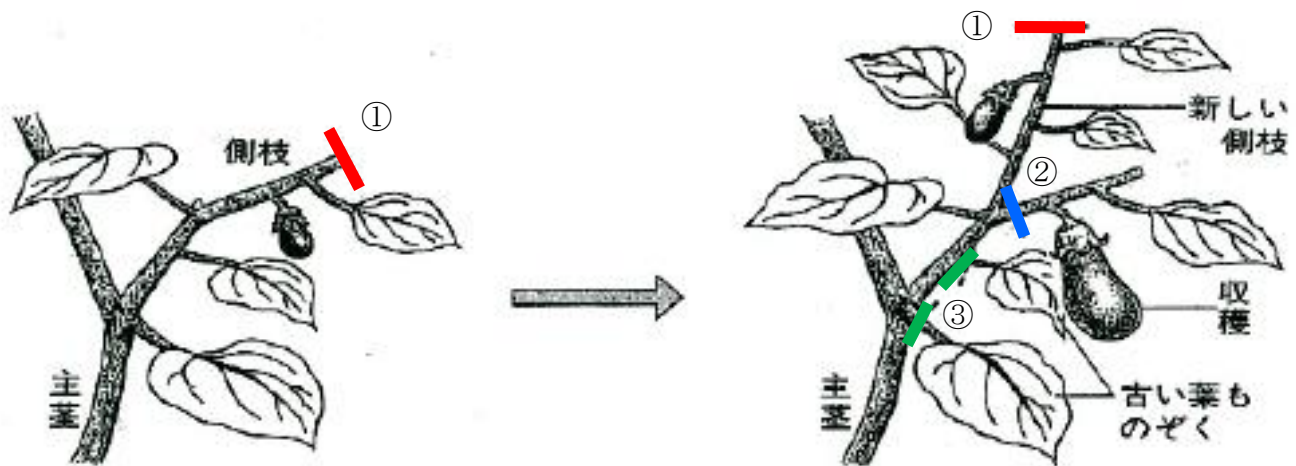
誘引方法

- ・枝の誘引角度は 60～65 度にする。
(枝が立ち気味だと、草丈が早く伸びる)
- ・誘引ひもを支柱に固定し、枝揺れを防止する。
- ・誘引ひもは枝分かれ部分の下から結ぶ。



側枝 (成り枝) のせん定方法

- ・側枝はナスの花の上の葉を 1 枚残して芯を止める。(線① 赤)
- ・側枝のナスは収穫時に枝も一緒に切る。(ナスと真下の葉のあいだを切る、線② 青)
- ・傷果防止のため、通常時でも、ナスにふれる葉があったら取り除く。(線③ 緑)



側枝の芯を止める

収穫時にナスがついていた枝も切り落とす

※主枝は、果実のみを収穫する。

収穫時期

収穫の目安

- ・開花後 3 週間程度を目安に収穫する。(大きさでなく、日数で判断する。)
- ・収穫適期を過ぎると (25 日以上)、果実につやがなくなり、茶色っぽくなって来る。
- ・1 果重 300 g 程度のものを 1 株当たり 40 個程度収穫できればよい。
- ・花落ち部分が真下になっていないもの、果実の表面が (かぼちゃ) のようにデコボコになっているものは取り除く。

追肥

- ・収穫が始まったら、樹勢を見ながら 10～2 週間おきに追肥を行う。
- ・株元には絶対にやらないように。畝の肩部分に施す。
- ・灌水チューブがある場合は、液肥で対応してもよい。